

# 8,000人 × 72時間

この人数は、大地震の際に、帰宅が困難になり大学に滞留することになると予想される学生のみなさんの最大人数です。

大地震の際には、緊急車両の通行確保や二次被害の防止のため、72時間は帰宅せず、滞留施設にとどまることとされています。

渋谷キャンパス 7,000人とたまプラーザキャンパス 1,000人が72時間過ごすためには、食糧の配布や滞留しているみなさんの情報確認、仮設トイレの設置やごみの処理や安全確保のための見回りなど、多岐にわたる対応が必要です。

そして、それらのことをスムーズに行うためには、みなさんの協力が必要です。大地震が起きたら、みなさんもぜひ力を貸してください。

## みなさんの協力をお願いします

危機対策本部 ※大規模災害時

自衛消防隊

指 揮 班	避 難 誘 導 班	救 出 救 護 班	初 期 消 火 班	施 設 設 備 班	情 報 収 集 班	防 災 セ ン タ ー 班	A M C 班
-------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------------------	------------------

### □ 大学としての災害対応

國學院大学では、災害時には右記の体制をとり、教職員がその対応に臨みます。みなさんは、教職員からの指示があった場合には、指示に従い冷静に行動してください。

### □ 大学としての災害への備え

#### ① 建物の耐震基準

本学の両キャンパスの建物は、現在の耐震基準を満たしており、震度6～7でも倒壊しない設計です。地震が発生しても建物内にいる場合は、落下物やガラスの飛散などから身を守るため、机の下などに潜り、まずは建物内にとどまってください。

#### ② 防災のための備蓄品

本学では、災害に備え食糧、水、毛布、災害用トイレなどの物品を備蓄しています。

大災害の際には、それらの備蓄品を使用し、滞留を支援します。配布の案内などは放送やハンドマイクでの呼びかけなどで行う予定ですので、教職員からのアナウンスを良く聞き確認してください。

1

## 揺れたらまずは…

地震の発生時には、まず次の行動で命を守ってください。



**DROP!**



**COVER!**



**HOLD ON!**



**AWAY!**



**OPEN!**

屋外避難等については、校内放送等でお知らせします。

2

## 72時間とどまる

**72  
とどまる**

地震の発生、発災後72時間は、救急救命活動、消火活動等が優先されます。そのため、政府や都道府県では「むやみに移動を開始しない」という帰宅抑制の方針を掲げています。

少なくとも72時間は、鉄道網の運行も停止すると見込まれており、混乱や二次被害の危険を回避するため滞留することになります。

72時間の間意識して行うことは…



### 安否確認カード

落ち着いたら、教職員から安否確認カードが配布されるので、記入し、提出する。



### 情報収集

TV・掲示板・携帯電話などで交通機関や帰宅経路の情報を確認・収集する。



### 家族との連絡

災害伝言ダイヤルやSNSで家族と互いの状況を連絡する。



### 余震への警戒

大きな余震を警戒し、危険な場所には近づかないようにする。



### 助け合い

両キャンパス合わせ、最大で8,000人が大学に滞留することになります。滞留時の食糧配布や救護所の設営、体調の悪くなった人への声掛けなど、みなさんの協力をお願いします。

# 揺れを感じたら…

まずは身を守ることに集中します。より安全な場所を瞬時に探し出し、揺れがおさまるまでその場でじっと待機します。

## 学内・建物内

### まず身の安全

物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所で揺れがおさまるまで様子を見る。



### ガラスから離れる

破損の恐れがあるガラスの窓や壁、ブロック塀などには近づかない。



### 外に出ない

あわてた行動 けがのもと！  
屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。  
瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



### 出口の確保

揺れがおさまった時に避難ができるよう、教室の窓や扉を開けて、出口を確保する。



## 学外・建物外

### まず身の安全

ガラスや壁の落下の危険性のない、なるべく広い場所で、身を低くし揺れがおさまるまで様子を見る。



### 建物から離れる

ガラスや壁が崩れてけがをすることがあるので建物に近づかない。



# 地震がおさまったら…

周囲ではさまざまな被害が生じています。落ち着いて以下の行動をとるように心がけてください。

学内・建物内

## まず身の安全

窓ガラス等の破損、天井からの落下物等を確認する。

## その場で待機

身の安全が確認できたら、その場で待機する

## 放送・教職員の指示をきく

学内緊急放送や教職員からの指示に従って行動する。

## 避難開始

衣類やカバンなどで頭を覆い、落下物から身を守りながらガラスの破片や地面の亀裂、陥没、隆起に注意して避難する。



学外・建物外

## まず身の安全

ガラスや壁の落下の危険性のない、近くの建物内に避難する。



## 避難開始

ガラスや壁、ブロック塀が崩れてけがをすることがあるので建物に近づかない。特に高いビルなどからはすみやかに離れる。



### 学内避難場所

[ 渋谷 ]

神殿前

[ たまプラーザ ]

球技場

### 広域避難場所

[ 渋谷 ]

青山学院大学

実践女子大学

国学院大学  
渋谷キャンパス

[ たまプラーザ ]

新石川小学校

国学院大学  
たまプラーザキャンパス



# 火災を発見したら…

一人で対応せず、周囲の人に知らせ、火災報知器を使って警備室へ連絡しましょう。

**大きな声を出す** 火災を発見した場合には、大きな声で周囲に火災を知らせる。

**火災報知器を鳴らす** 消火栓に設置している「火災報知器」のボタンを押す。



# 火災報知器が鳴動したら…

混乱が生じると、二次災害につながります。指示に従い、落ち着いて行動しましょう。

**放送・教職員の指示をきく** 学内緊急放送や教職員からの指示に従って行動する。避難の指示があった場合は身の安全を確保して、避難する。

**避難開始** 学内緊急放送や教職員の指示に従い、火災が起こっていない場所を通して避難する。

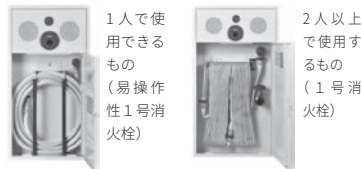
## 参考 消火設備の使用

炎が天井まで燃え広がっていない段階では、消火活動をお願いすることがあります。(設置場所は「建物平面図」を参照)

### ① 消火器 風上からの使用・避難路を背にしての使用



### ② 消火栓



### ③ その他消火設備

- ①スプリンクラー設備 (自動放水) … 天井の機器が火災を感知し、放水を行う設備
- ②不活性ガス消火設備 (自動・手動の切替が可能) … 火災の感知、または手動にて、ガス消火剤を放出する設備
- ③防火戸・防火シャッター … 延焼を防ぐために区画形成を行う設備

# 今いる場所が危険だったら…

身の安全を確保した後、放送などの指示に従って避難を行います。避難経路を使用できない場合は、避難器具を用います。日頃から避難方法を確認しておきましょう。

## まず身の安全

窓ガラス等の破損、天井からの落下物等を確認する。

## 落ち着いて行動

身の安全を考慮して、あわてず、さわがず、落ち着いて行動する。

## 放送・教職員の指示をきく

学内緊急放送や教職員からの指示に従って行動する。避難の指示があった場合は身の安全を確保して、避難する。



## 避難開始

衣類やカバンなどで頭を覆い、落下物から身を守りながらガラスの破片や地面の亀裂、陥没、隆起に注意して避難する。

### 参考 非常口・避難経路

緊急放送や教職員による指示に従い、各建物に設置されている避難経路で避難を行ってください。非常口や避難経路付近には表示灯もありますので、落ち着いて行動してください。

#### ① 避難経路図 (各教室設置)



▲非常口の表示灯

#### ② エレベータ用避難経路

(各階設置、各建物1Fの避難経路図)



▲避難経路の表示灯

### 参考 避難器具

避難経路が使用できない場合は避難器具を使用します。(設置場所は「建物平面図」を参照)

#### ① 吊り下げはしご

上階から下階に向けて、吊り下げて使用する。



#### ② 救助袋

筒状の布袋を地上に下ろし、袋内の滑降路を下る器具。



#### ③ 緩降機

リールのついたロープを器具に吊り下げ、自重を用いて降下する器具。



# 倒れている人を見つけたら…

倒れている人を見かけたら、自身の安全を確保し、周囲の人と一緒に救助及び救命処置を行ってください。

## 大きな声を出す

けが人を発見した場合には、大きな声で周囲に知らせる。教職員が近くにいる場合には、すぐに知らせる。

## 周囲の安全確認

けが人がいる場所の安全を確認し、状況に応じてけが人を移動させる。

## 救護所への搬送

学内緊急放送や教職員からの指示に従って行動する。避難の指示があった場合は身の安全を確保して、避難する。

### 救命処置フロー

### 周囲は安全？

### 助けを求める

「だれか来てください！」「人が倒れています！」「あなた(指をさす)119番通報してください。」「あなた(指をさす)AEDを持ってきてください。」



### 周囲は安全？

### 意識はある？

YES

肩を軽く叩きながら「わかりますか？」などと徐々に大きな声で2～3回呼びかけます。



### 呼吸の確認をする

YES

胸または腹部の上下動を10秒以内で確認します。  
※口元の動きに感われない。



### 回復体位にする

意識がなくなると、舌根沈下や嘔吐物などにより気道の閉塞が起こることがある。これを防ぐために、負傷者を横向きにして下あごを前に出し、両肘を曲げ、上側の膝を約90度曲げ、負傷者が後ろに倒れないような体勢にする。



### 胸骨圧迫を実施する

NO

圧迫の速さ：  
1分間 100～120回  
圧迫の強さ：  
胸骨の下半分 5cm～6cm



### AEDを使う



緑のハンドルを引くと自動的に電源が入ります。電源を入れた後は、音声メッセージで案内されます。

# AED(自動体外式除細動器)

## 設置場所

渋谷：若木タワー1F 管財課前・AMC1Fインフォメーション・5号館1F 若木会館側入口・総合学修館(6号館)1F 国際交流課前  
 たまプラーザ：1号館1F警備室・チェリーロード 若木21側階段下・5号館1F警備室・SPORTS SQUARE1 1F体育教員室・SORTS SQUARE3 1F管理室

- 1** 引いて電源ON  
 → 自動音声ガイダンススタート



- 2** パッドを患者の胸に装着してください。  
 → 解析ランプが点滅します



## けが人等の移動

1人での搬送は傷病者に負担をかける可能性があります。助けをよび、複数人で搬送するようにしましょう。

### ① 2人で搬送する方法



### ② 3人で搬送する方法



### ③ 担架などを使う

傷病者の足側を前にし、動揺や振動を与えないようにして運ぶ。丈夫な板などで代用することも可能。

#### 担架の設置場所

渋谷：若木タワー 3 F 保健室  
 たまプラーザ：1号館 1F 保健室





## 大学への連絡方法

「K-SMAPY2」を利用して学生の安否確認を行います。  
落ち着いたら、「K-SMAPY2」にて安否をお知らせください。

### 1 K-SMAPY2 にログインしてください。

【スマートフォン】

<https://ksmapy.kokugakuin.ac.jp/up/up/co/smartphone/login.jsp>

【パソコン】

<https://ksmapy.kokugakuin.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp>

▶スマートフォン  
はこちらから



### 2 ログイン後「安否確認情報」が表示されますので、回答をしてください。

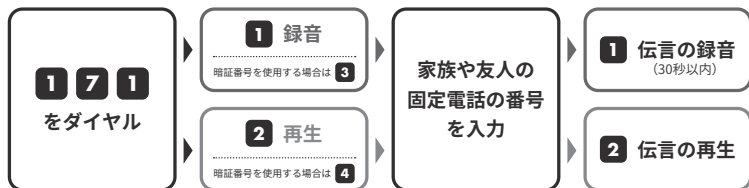


入力後は必ず画面下の「回答」ボタンを押してください。

## 家族との連絡方法

大規模災害が発生した時は、安否確認などの電話が急激に増加し、電話がつながり難い状況が発災当日～数日間続きます。このため電話会社、携帯各社が提供する伝言板サービス等を利用して、家族や友人の安否を確認してください。

### 1 固定電話 【NTT災害用伝言ダイヤルサービス】音声による安否確認情報サービスです。



### 2 スマホ・携帯 【災害用伝言板】文字を使った安否確認情報サービスです。



NTTドコモ



au



ソフトバンク



ワイモバイル



災害用伝言板  
※ (web171)

※安否情報まとめて検索「J-anpi」(<https://anpi.jp/top>)

災害伝言板や報道情報など、災害時に各社が提供する安否情報を一括して検索できるサービスです。  
「電話番号」または「氏名」で検索できます。

# 日頃の準備

災害の発生を防ぐことはできませんが、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どのような準備が必要となるのか、日頃から考えておきましょう。

- 家族との連絡方法や待ち合わせ場所の確認
- 避難場所や緊急避難場所の確認（大学付近および自宅周辺のほか、よく訪れる場所）
- 災害伝言サービスの登録
- 帰宅ルートと所要時間の確認（災害時は徒歩で約 2.5Km/時）
- ハザードマップの確認
- 緊急時メモの作成
- 具体的な情報収集手段の確認
- 大学や友人などの連絡方法の確認やリスト整備
- 緊急時アイテムの常備、確認

緊急時アイテム（日頃から、持ち歩いた方がよいもの）

現金（小銭も）
保険証
学生証（身分証となるもの）
タオル、絆創膏、包帯
小型ライト（手回し充電式・できるだけ明るいもの）
小型ラジオ（手回し充電式）
ティッシュ、ウェットティッシュ
非常食になるもの （チョコレート、飴などの高カロリーなもの）
水またはお茶のペットボトル
アドレス帳（家族、友人の連絡先を記入）
筆記用具（油性ペンなど）
携帯充電器（ソーラー推奨）、 携帯充電用ケーブル
ごみ袋
非常用保温アルミシート

緊急時メモ（ファーストエイドなど）
常備薬
コンタクト用品
生理用品

